

人類の文化は、その物質文化たと精神文化たとを問わず、当初個人の創意に基いて始められたものが地域の社会に受け入れられ、その集団の文化として定着したものである。

文化はそれを創始した民族の移動や他民族との交渉の過程で他地域に伝播する。さて、あらゆる文化は、その成立した風土や民族の特色を負うており、それが他民族他地方によって受容される範囲にも自ら限界が生ずる。かくて同一文化の広がりや文化圏として識別することができる。

現在世界的にまた地方的に生れている大小の文化圏は、多くは過去幾千年にわたり歴史的に形成されたものである。文化の起原地、それからの伝播の径路、各地における変容など文化圏の人文地理学的研究はフリードリッヒ・ラッツェルによって体系づけられたのであるが、特に歴史地理学的究明を要請する課題に満ちている。

文化のなかでも物質文化、ことに人類の生存を支える生活文化——衣食住の様式がまず注目される。狩猟、漁撈、農耕、それぞれ、その方法や用具が違っている。住居ことに民家の建築様式も文化圏のよい指標となる。食物の調理や収蔵に用いられた土器の様式分布は先史原史時代の地方文化圏推定の唯一手段といっても過言ではなからう。

物質文化を基底として精神文化が花咲く。精神の表出はまず言語によって行われる。従つて言語は人類の精神文化を地域分けする最も基本的な指標である。

精神文化の中で、根元的であり、かつ高次なものに高め得られるものとして宗教がある。もとより、その分布は諸々の低次元の世俗によつてゆがめられているけれども。

本書は如上の諸問題を中心として多年研鑽を続けてきた諸權威の、また精緻な理論と斬新な研究方法をもつて迫つた中堅新進の諸論考を集めたものである。地理学、歴史学、民族学、文化人類学などに関心を寄せられる大方の清読をお願いして序とする。

なお、本書の上梓にあたっては財団法人畠山文化財団から多額の助成金を賜わつたことを付記して謝意を表する。

昭和四十八年二月十八日

米 倉 二 郎